



報道関係各位

2016年2月18日

## 現地に行かなくてもできるボランティア活動、海水や泥で汚損した思い出の写真を修復 「あなたの思い出まもり隊」が活動報告会を工学院大学で開催

～修復枚数 26,000 枚以上、活動時間は延べ 4,200 時間～

工学院大学（学長：佐藤光史、所在地：東京都新宿区）は、神戸学院大学（学長：岡田豊基、所在地：兵庫県神戸市中央区）と東北福祉大学（学長：大谷哲夫、所在地：宮城県仙台市青葉区）の3大学共同で設立した「社会貢献学会東日本大震災支援委員会」を中心に“現地へ行けなくても復興の手助けをしたい”と考える人の気持ちをカタチにし、海水や泥で汚損した大切な思い出の写真を修復する「あなたの思い出まもり隊」プロジェクトに取り組みました。活動開始から5年が経過し、依頼を受けたすべての写真修復作業が終了。2月16日に活動報告会を開催しました。

### 「あなたの思い出まもり隊」プロジェクトとは…

「あなたの思い出まもり隊」は、東日本大震災の際に、海水や泥で汚損してしまった大切な思い出が詰まった写真を修復するボランティア活動です。震災の被害を受けなかった工学院大学と神戸学院大学が連携し、2011年4月より活動を開始。工学院大学では同年7月から学生を中心に教職員や社会人が参加して活動を本格的に始動し、参加ボランティアの総数は183名\*にも及び、延べ活動時間は4,200時間\*、修復した写真は26,128枚\*にのぼりました。（\*工学院大学実績）

### 現地に行かなくてもできるボランティア活動

当時、工学院大学の大学院生として被災地に入り、ボランティア活動に参加した平本達也（工学院大学TKK助け合い連携センター）が、プロジェクトの活動概要について説明を行いました。

「復興支援をしたいという強い想いはあったものの、時間の制約でなかなか東北まで赴くことができなかった。そこで東京にいてもボランティア活動ができる本プロジェクトへの参加を決めた」と当時の心境を語りました。

「本プロジェクトをとおして、“私のように何かボランティアをしたいけれど、現地に行くには様々な不安があり、行動に移すことができない”と考える人と、被災者をつなぐことができた」と振り返りました。



写真の修復手順を説明



修復活動に尽力したボランティアの方に  
佐藤光史学長より感謝状を贈呈

### 顔の見えない関係をつなぐ

また、本プロジェクトの発案者である船木伸江准教授（神戸学院大学現代社会学部社会防災学科）にも参加しました。

「依頼者には、直接会わない活動に日々取り組んでいたため、ボランティアのモチベーション維持が大変だった。しかし、直接お会いできない依頼者と手紙を交わし、SNSで作業状況を発信することで、顔の見えない関係をつなぐことができた」と振り返りました。

<取材等に関するお問い合わせ>

学校法人 工学院大学 総合企画部広報課 担当：関根・佐野  
TEL:03-3340-1498/e-mail:gakuen\_koho@sc.kogakuin.ac.jp

## 参考資料 (写真修復手順)

修復作業は、被災地から送られてきたアルバム写真を1枚ずつ確認し、丁寧にはがすことから始まります。まず「修復可能なもの」と「そうでないもの」に分類し、その後スキャニング作業を行い、しみや汚れ、破れを画像処理ソフトで補修。

そして新しい写真として蘇生させていく作業を繰り返します。

「写真を修復する」といっても、失われた画像情報そのものを蘇らせるのではなく、あくまで残された周辺の画像を手がかりにきれいに加工するというものですが、その工程は地道で、中には1枚を修復するのに数時間を要するものもあり、時間と根気が必要とされる作業です。このような丁寧な作業工程を経て、被災地から送られてきたアルバムは、数ヶ月にわたる修復作業を経て、被災者の元へ戻されます。

### 1) 修復作業は、希望者から送られてきたアルバムの状態を記録し、修復可能かを判別することから始まる



写真によって、洗浄可能なものと不可能なものがある。主に家庭用のインクジェットプリンターで印刷した写真は洗浄できるものが多いが、ポラロイドやチェキなどの写真は写真背面が水濡れするため洗浄が難しい。また、インクジェットプリンターには染料系と顔料系のインクがあり、染料系で印刷されたものは長時間水につけるとインクが流れてしまうため手早く清掃しなければならないなど、作業の経験から得た注意点等がマニュアルに記載されている。

### 2) 写真の状態をデジカメで1枚ずつ撮影し記録する



### 3) ボランティアが写真を1枚ずつ丁寧に砂ボコリや汚れを落とす



写真がどの場所に貼ってあったか、アルバムの写真位置等も含めて記録。原型をとどめていないものや人の顔が完全に消えてしまっているものは修復が困難のため、修復可能か否かを判断し状態別に付箋をつけ分類。

(分類)

- ・黄色の付箋→Photoshopで修復可
- ・青色の付箋→スキャナーの補正機能修復可
- ・赤色の付箋→修復不可

### 4) 洗浄した写真を乾燥させた後、スキャナーで読み取りデジタルデータ化する



### 5) Photoshop(画像編集ソフト)を用いて修復後、写真を印刷。アルバムにして修復依頼者に返送



作業手順の統一(誰でも同じ作業が行えるように)を目的にマニュアルを作成  
(マニュアルは工学院大学のHPから閲覧可)

